佐賀大学美術館 事業報告及び 自己点検・評価報告書 平成28年度

平成29年12月

佐 賀 大 学 美 術 館

目 次

Ι	佐賀	大学	美術館の	現況	.及	J	ド ‡	寺往	数											
	1	概	要		•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		p.	1
	2	沿	革				•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		p.	2
	3	施設	概要				•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		p.	3
	4	組	織		•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		p.	4
	5	平成	28年度0	の活動	l															
	(-)主	な活動						•	•	•	•	•	•	•	•	•		p.	5
	(2	2)主	催事業展	示記録					•	•	•	•	•	•	•	•	•		p.	6
	(3	3)企	画申請事詞	業展示	記	録			•	•	•	•	•	•	•	•	•		p.	16
	(4	1)実 ³	習・研修						•	•	•	•	•	•	•	•	•		p.	26
	(5	5)刊	行 物						•	•	•	•	•	•	•	•	•		p.	28
	(6	6) 広	報						•	•	•	•	•	•	•	•	•		p.	29
	(7	7)見:	学団体・プ	入館者	数				•	•	•	•	•	•	•	•	•		p.	31
	3)	3)作	品管理・信	呆管					•	•	•	•	•	•	•	•	•		p.	34
	(9)寄	附状況						•	•	•	•	•	•	•	•	•		p.	36
Ι	自己	点検	・評価	•	•	•	•	ı	•	•	•	•	•	•	ı	•	•		p.	37
			8年度の	主な流	舌重	加	こ目	目 写	† ?	5 É	1 2	3 봈	包括	乡 '	· Ē	平位	6			
	2	今後σ)課題等																	

I 佐賀大学美術館の現況及び特徴

1 設立趣旨と活動目的

平成25年10月,旧佐賀大学と佐賀医科大学の統合10周年記念事業の一つとして開館。美術館と併せて整備された正門エリアは「地域に開かれた大学」という佐賀大学の理念を象徴し、門扉のない低い正門、そして、水平線が強調され、ガラス張りのファサード(正面)をもつ美術館から成る。そして、佐賀大学美術館は、より多くの人に総合大学である佐賀大学の魅力を知っていただくための情報発信の場として建設された。

平成 15 年の国立大学法人法の制定以来,国立大学はそれまで以上にそれぞれの特徴を打ち出し,存在意義を明確にしなければならなくなった。佐賀大学の特色や強みは何かと言われたとき,60 年以上の歴史を誇り,多くの優れた美術・工芸分野の教員,作家,デザイナーなどを輩出してきた美術・工芸教室の実績は地域に確たる歴史を刻んでいる。このような歴史と実績を背景とし,新生佐賀大学の10 周年を記念する事業の一つとして,佐賀大学美術館建設はスタートした。総合大学であるにもかかわらず,博物館や資料館ではなく,美術館が建てられた理由もそこにある。

一方,佐賀大学は「COC (センター・オブ・コミュニティ)」を大学の理念として掲げている。すなわち,佐賀大学の大学としての大きな存在意義とは,地域貢献にある。佐賀大学は,佐賀大学美術館を通して地域の文化芸術の促進に貢献するとともに,佐賀大学美術館が地域の人々のコミュニケーションの場となる使命を有するのは,そのような理由があるからである。

佐賀大学美術館は、佐賀大学が所有する資料の公開や、特別教科(美術・工芸)教員養成課程 以来の美術作品を収集・保管・展示するとともに、美術の新しい活動や表現を地域の人々ととも に作り上げていく。また、佐賀大学美術館は、総合大学が生み出すさまざまな研究成果を周知・ 公開していく。

博物館法に定められた美術館の機能である 1)調査・研究 2)資料の収集・保存・公開 3)教育普及の柱を堅持しつつ、なおかつ佐賀大学美術館は、これらの機能に加えて大学の研究教育機関としての役割、すなわち、全学的な教育研究成果の発表、美術教育研究成果のアーカイブ化などを果たしていく。このような「社会教育の場」であるとともに、「大学の教育研究機関」でもあるという位置付けこそが佐賀大学美術館の特徴であり、学生の教育のために積極的にその場を提供し、また、美術館自体も博物館活動を通じて学生への教育を担う。

(参考)

佐賀大学美術館設置までの主な経緯(役員会での決定等)

平成23年6月8日 美術館設置諮問委員会からの答申を報告し、美術館・正門整備委員会の設置を審議・了承

平成24年1月25日 平成23年度補正予算(第2次)案で基本設計費の審議・了承

平成24年2月22日 基本設計のイメージ説明,募金趣意書等を審議・了承

平成24年6月20日 平成24年度補正予算(第1次)案で実施設計費,建設費の審議・ 了承

平成25年6月26日 佐賀大学美術館規則等の制定

2 沿 革

平成23年 1月 4日 学長年頭挨拶で美術館設置計画を発表

平成23年 6月 8日 役員会にて美術館設置諮問委員会からの答申書を報告

美術館の設置を審議・了承

平成23年12月20日 美術館基本設計建設コンサルタント選定委員会

平成24年 2月22日 役員会にて基本設計のイメージを説明。募金趣意書を了承

平成24年 5月14日 基本設計納入

平成24年12月29日 美術館実施設計終了

平成25年 2月14日 新営工事起工式

平成25年 6月26日 美術館規則,美術館運営委員会規程制定

平成25年 8月30日 美術館建設工事竣工

平成25年 9月28日 佐賀大学統合10周年記念式典・佐賀大学美術館開館記念式典

平成25年10月 2日 一般公開開始

平成26年10月24日 入館者5万人達成

平成27年 1月22日 第18回佐賀市景観賞表彰式

平成28年 2月19日 入館者10万人達成

3 施設概要

名 称 佐賀大学美術館(通称 SUAM)

所 在 地 佐賀市本庄町1番地

基本設計 佐賀大学

実施設計 (株) 梓設計九州支社(協力:(株) ワークヴィジョンズ)

監 理 佐賀大学環境施設部

施工建設・・・金子建設(株)

電気・・・(株)佐電工機械・・・(株)九電工

構 造 鉄骨造・地上2階建

延床面積 1,502㎡

展示面積 462 m²

ギャラリー1106㎡ギャラリー2106㎡スタジオ111㎡特別展示室48㎡小展示室34㎡歴史展示スペース57㎡

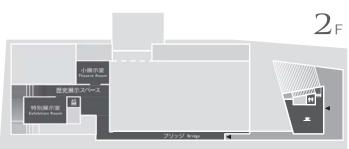
その他プロムナード 中庭 ブリッジ設備トイレ 多目的トイレ ロッカー

併 設 カフェ

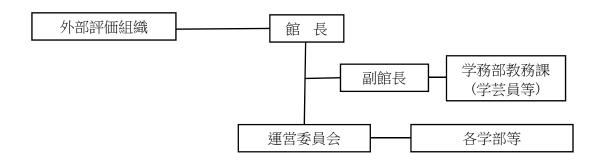
開館時間 10時00分~17時00分

休 館 日 毎週月曜日 (祝日の場合は翌日, 年末年始, 夏季休業期間)





4 組 織



〔職員〕

館長 後藤昌昭 (平成 27 年 10 月 1 日~) 副館長 田中嘉生 (平成 27 年 10 月 1 日~) 主任(学芸員) 佐々木奈美子 西村 彰 事務員(再雇用) 事務補佐員(学芸員) 大 坪 由 季 (~平成 29 年 3 月 31 日) 事務補佐員(学芸員) 鬼塚美津子 事務補佐員(学芸員) 今村真由美

〔 運営委員会委員 〕

委員長(館長)	理事	後藤昌昭
副委員長(副館長)	教授	(平成 27 年 10 月 1 日~) 田 中 嘉 生
委員	准教授	(平成 27 年 10 月 1 日~) 和 田 学 (平成 28 年 4 月 1~)
委員	教授	田中右紀 (~平成29年3月31日)
委員	教授	平 地 一 郎
委員	准教授	村 田 尚 恵 (~平成 29 年 3 月 31 日)
委員	准教授	後藤隆太郎 (~平成29年3月31日)
委員	教授	白 武 義 治 (~平成 29 年 3 月 31 日)
委員	学務部長	下 川 洋 司 (~平成 29 年 3 月 31 日)
委員	佐賀大学 同窓会長	金丸安隆
委員	教授	元 八 ダ 陸 荒 木 博 申 (平成 27 年 10 月 1 日~)

平成 29 年 3 月 31 日現在

5 平成28年度の活動

(1) 主な活動

平成28年 3月21日「芸術地域デザイン学部開設記念展

― 芸術で地域を拓く,芸術で世界を拓く」(~5.8)

3月21日「久富邦夫〈東京〉 - 太宰と出会った修業時代」(~7.10)

5月20日「佐賀の美術教師たち

一 地方画壇の成立と美術教育者」(~7.10)

7月23日「佐大の工芸」(~11.20)

11月24日 「久富邦夫〈佐賀〉 — 創造の旅」 (~3.25)

(2) 主催事業展示記録

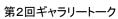
展覧会名 「芸術で地域を拓く、芸術で世界を拓く」 平成28年4月に開設された芸術地域デザイン学部を紹介 する展覧会。 柳健司氏(ミクストメディア)による立体作品や、杉木達應 氏(情報デザイン)によるパネル展示、土産胃哉氏(コンテン デザイン)による水像を用いた(スタルーション等、4月に 若任した3名の教員の作品を中心に、新学部の全教員 2 4名の作品や研究成果を紹介した。 会期中にはその3名の教員によるギャジリートークを開催した。 会期 平成28(2016)年3月21日(月・祝)~5月8日(日)		· 	25 Million the Market and the second at the 200 - 1 - 200 - 1					
平成28年4月に開設された医療地域デザイン学部を紹介する原策会。	展覧会名	芸術地域デザイン学部開設記念展	系統立即等於《 佐賀大学					
機能司氏(ミクストメディア)による立体作品や、杉本達應 氏(情報デザイン)によるパネル原示・上庭貴畝氏(コンテンデザイン)による外後を用いたインスタレージン等。4月に着任した3名の教員の作品を中心に、新学部の全教員24名の作品や研究成果を紹介した。会期中にはその3名の教員によるギャラリートークを開催した。 中成28(2016)年3月21日(月・祝)~5月8日(日)	 		S A G A					
展覧会概要 任人でいた。公が、日本のでは、日			UNIVERSITY					
展覧会概要 ツデザイン)による映像を用いたインスタレーション等、4月に 宿住にか3名の教員の作品を中心に、新学部の全教員 2 4名の作品や研究成果を紹介した。会期中にはその3名の教員によるギャラリートークを開催した。 会期 平成28(2016)年3月21日(月・祝)~5月8日(日) チフシ (全日間) 42日間 42日間 42日間 42日間 58億 年7月」、ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ 生催 佐賀大学芸術地域デザイン学部設置準備委員会/佐賀大学文化教育学部 共催 佐賀大学美術館 田中高生/荒木博申/物健司/徳安和博/小木曾域/石崎誠和/井川健/田中右紀/赤津隆/中村隆敏/土屋貴哉/杉本達應/小坂智子/吉住磨子/石井美恵/花田伸一/重藤輝行/ホートンS、A/山下宗利/山崎功/有馬隆文/山口夕妃子/富田義典/西島博樹 24名による作品26点 バネル24点 計50点 入館者数 3,873名		1	TO LARTS					
着任した3名の教員の作品を中心に、新学部の全教員2 4名の作品や研究成果を紹介した。 会期中にはその3名の教員によるギャラリートークを開催した。 会期 平成28(2016)年3月21日(月・祝)~5月8日(日)	R M A W A W A W A W A W A W A W A W A W A	i i						
4 名の作品や研究成果を紹介した。会開中にはその3名の教員によるギャラリートークを開催した。た。 会期 平成28(2016)年3月21日(月・祝)~5月8日(日) チラシ 中成28(2016)年3月21日(月・祝)~5月8日(日) チラシ オと日間 会場 ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ 主催 佐賀大学美術館 田中嘉生/荒木博申/炉健司/徳安和博/小木曾誠/石崎誠和/井川健/田中右紀/ 赤津隆/中村隆敏/上屋貴哉/杉太達應/小坂智子/古任唐子/石井美恵/花田伸一/ 重藤輝行/ホートンS.A./山下宗利/山崎功/有馬隆文/山口夕妃子/宮田義典/ 西島博樹 24名による作品26点 パネル24点 計50点 入館者数 3,873名 広報媒体 チラシ、ボスター、外看板、HP、FB 配布資料 チラシ、目録 ギャラリートーク 第1回 日時:4月23日(土)15:00~ 講師:が健司氏(教授、ミクストメディア) 第2回 日時:4月23日(土)13:00~ 講師:お母達3日(土)13:00~ 講師:ち月23日(土)13:00~ 講師:ち月23日(土)13:00~ 講師:上屋貴哉氏(権教授、コンテンツテザイン) 第3回 日時:1月25日(大権教授、コンテンツテザイン) 第3回 日時:1日屋貴哉氏(権教授、コンテンツテザイン)	展算会概要 L	1	開 DESIGN					
会期 平成28(2016)年3月21日(月・祝)~5月8日(日) (月)			設 N					
会期 平成28(2016)年3月21日(月・祝)~5月8日(日) (月)		会期中にはその3名の教員によるギャラリートークを開催し	記 3/21 ②					
開館日数 42日間 会場		た。	正 5/8 (1) 10-1772					
会場 ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ 主催 佐賀大学芸術地域デザイン学部設置準備委員会/佐賀大学文化教育学部 共催 佐賀大学芸術館 田中嘉生/荒木博申/柳健司/德安和博/小木曽誠/石崎誠和/井川健/田中右紀/ 赤津隆/中村隆敏/土屋貴哉/杉本達應/小坂智子/吉住磨子/石井美恵/花田伸一/ 重藤輝行/ホートンS.A./山下宗利/山崎功/有馬隆文/山口夕妃子/富田義典/ 西島博樹 24名による作品26点 パネル24点 計50点 入館者数 3,873名 広報媒体 チラシ、ボスター、外看板、HP、FB 配布資料 チラシ、間の 日時: 4月9日(土) 15:00~ 講師: 柳健司氏(教授、ラフストメディア) 第1回 日時: 4月9日(土) 13:00~ 講師: 杉本達應氏(推教授、情報デザイン) 第3回 日時: 5月3日(火) 13:00~ 講師: 土屋貴武氏(准教授、コンテンツテザイン) 展示写真	会期	平成28(2016)年3月21日(月・祝)~5月8日(日)	チラシ					
主催 佐賀大学芸術地域デザイン学部設置準備委員会/佐賀大学文化教育学部 共催 佐賀大学美術館 田中嘉生/荒木博申/柳健司/德安和博/小木曾誠/石崎誠和/井川健/田中右紀/ 赤津隆/中村隆敏/上屋貴哉/杉木達應/小坂智子/吉住磨子/石井美恵/花田伸一/ 重藤輝行/ホートンS.A./山下宗利/山崎功/有馬隆文/山口夕妃子/富田義典/ 西島博樹 24名による作品26点 パネル24点 計50点 入館者数 3,873名 広報媒体 チラシ、ボスター、外看板、HP、FB 配布資料 チラシ、自録 ギャラリートーク 第1回 日時: 4月9日 (土) 15:00~ 講師: が健司氏 (教授、ミクストメディア) 第2回 日時: 4月23日 (土) 13:00~ 講師: 杉本達應氏 (准教授、情報デザイン) 第3回 日時: 5月3日 (火) 13:00~ 講師: 土屋貴哉氏 (准教授、コンテンツテサイン) 展示写真	開館日数	42日間						
共催 佐賀大学美術館 田中嘉生/荒木博申/柳健司/徳安和博/小木曾誠/石崎誠和/井川健/田中右紀/ 赤津隆/中村隆敏/上屋貴哉/杉本達應/小坂智子/吉住唐子/石井美恵/花田伸一/ 重藤輝行/ホートンS.A./山下宗利/山崎功/有馬隆文/山口夕妃子/富田義典/ 西島博樹 24名による作品26点 パネル24点 計50点 入館者数 3,873名 広報媒体 尹ラシ、ポスター、外看板、HP、FB 配布資料 チラシ、間の 日時: 4月9日 (土) 15:00~ 講師: 柳健司氏 (教授、ミクストメディア) 第2回 日時: 4月23日 (土) 13:00~ 講師: 杉本達應氏 (准教授、情報デザイン) 第3回 日時: 5月3日 (火) 13:00~ 講師: 土屋貴武氏 (准教授、1ンテンツテサイン) 展示写真	会場	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ						
展示構成	 主催	佐賀大学芸術地域デザイン学部設置準備委員会/佐賀大	学文化教育学部					
展示構成	共催	佐賀大学美術館						
展示構成		田中嘉生/荒木博申/柳健司/德安和博/小木曽誠/石崎	 誠和/井川健/田中右紀/					
重勝陣行/ホートンS.A./山下宗利/山崎切/有馬隆文/山口夕妃子/畠田義典/ 西島博樹 24名による作品26点 パネル24点 計50点 3,873名 広報媒体 チラシ、ポスター、外看板、HP、FB 配布資料 チラシ、目録 ギャラリートーク 第1回 日時: 4月9日 (土) 15:00~ 講師: 柳健司氏 (教授、ミクストメディア) 第2回 日時: 4月23日 (土) 13:00~ 講師: 杉本達應氏 (推教授、情報デザイン) 第3回 日時: 5月3日 (火) 13:00~ 講師: 土屋貢哉氏 (准教授、コンテンツテザイン)	展二排代							
ス館者数 3,873名 広報媒体 チラシ、ボスター、外看板、HP、FB 配布資料 チラシ、目録 ギャラリートーク 第1回 日時: 4月9日(土)15:00~ 講師: 柳健司氏(教授、ジクストメディア) 第2回 日時: 4月23日(土)13:00~ 講師: 杉本達應氏(准教授、情報デザイン) 第3回 日時: 5月3日(火)13:00~ 講師: 土屋貢武氏(准教授、コンテンツテザイン) 東京写真 東京写真 東京写真 東京の表現 東京の			-					
広報媒体 チラシ、ポスター、外看板、HP、FB		西島博樹 24名による作品26点 パネル24点 計	50点 					
配布資料 チラシ、目録 ギャラリートーク 第1回 日時:4月9日(土)15:00~ 講師: 柳健司氏(教授、ミクストメディア)第2回 日時:4月23日(土)13:00~ 講師:杉本達應氏(准教授、情報デザイン)第3回 日時:5月3日(火)13:00~ 講師:土屋貴哉氏(准教授、コンテンツテザイン) 第1回ギャラリートーク 展示写真	入館者数	3,873名						
関連事業 第1回 日時: 4月9日 (土) 15:00~ 講師: 柳健司氏 (教授、ミクストメディア) 第2回 日時: 4月23日 (土) 13:00~ 講師: 杉本達應氏 (准教授、情報デザイン) 第3回 日時: 5月3日 (火) 13:00~ 講師: 土屋貢武氏 (准教授、コンテンツテザイン)	広報媒体	チラシ、ポスター、外看板、HP、FB						
関連事業 第1回 日時:4月9日(土)15:00~ 講師: 物健司氏(教授、ミクストメディア) 第2回 日時:4月23日(土)13:00~ 講師:杉本達應氏(准教授、情報デザイン) 第3回 日時:5月3日(火)13:00~ 講師:土屋貢蔵氏(准教授、コンテンツデザイン)	配布資料	チラシ、目録						
関連事業 第回 : 柳健司氏 (教授、ミクストメディア) 第2回 日時: 4月23日 (土) 13:00~ 講師: 杉本達應氏 (准教授、情報デザイン) 第3回 日時: 5月3日 (火) 13:00~ 講師: 土屋賞哉氏 (准教授、コンテンツテザイン) 第1回ギャラリートーク 展示写真								
関連事業 第2回 日時: 4月23日(土) 13:00~ 講師: 杉本達應氏(准教授、情報デザイン) 第3回 日時: 5月3日(火) 13:00~ 講師: 土屋責哉氏(准教授、コンテンツテザイン) 教員を紹介するパネル 第1回ギャラリートーク 展示写真		<u>!</u>						
講師: 杉本達應氏 (准教授、情報デザイン) 第3回 日時: 5月3日 (火) 13:00~ 講師: 土屋賞裁氏 (准教授、コンテンツデザイン) 教員を紹介するパネル 第1回ギャラリートーク 展示写真	関連事業	;						
第3回 日時: 5月3日 (火) 13:00~ 講師: 土屋賞武氏 (准教授、コンテンツテザイン) 教員を紹介するパネル 第1回ギャラリートーク 展示写真	1.3.23	1!						
表 教員を紹介するパネル 第1回ギャラリートーク		第3回 日時:5月3日(火)13:00~						
展示写真 Water Property of the p		講師:土屋真哉氏(准教授、コンテンツテザイン)						
展示写真 The property of the pro								
展示写真 The property of the pro			STEELS HOLD IN					
展示写真 The property of the pro								
展示写真 The property of the pro								
展示写真 The property of the pro								
展示写真 The property of the pro								
mation Design		教員を紹介するパネル	第1回ギャラリートーク					
nation Design	展示写真							
Designation of the state of th								
		是						
第2回ギャラリートーク 第3回ギャラリートーク		第2回ギャラリートーク	第3回ギャラリートーク					

展覧会名	久富邦夫〈東京〉―太宰と出会った修業時代		久
展覧会概要	佐賀大学で石本秀雄とともに西洋画を教えた久富邦夫の学生時代から佐賀大学に勤めるまでの作品を中心に、久富邦夫の半生を紹介した展覧会。 本展では、その中でも久富が在学中に東京で出会った師・友人、そして家族との関わりを通して画家としての久富に迫る。また、文豪 太宰治が描いた久富の肖像画も公開した。 会期中には担当学芸員によるギャラリートークも開催した。		富鴻邦夫〈東京〉★************************************
会期	平成28(2016)年3月21日(月·祝)~7月10日(日)	11643月21日①®-7月10日① INSULTATION 1 INSULTAT	チラシ
開館日数	96日間		
会場	特別展示室		
主催	佐賀大学美術館		
協力	久冨家		
展示構成	絵画18点、資料29点 計47点		
入館者数	4,979名		
広報媒体	チラシ、ポスター、外看板、HP、FB		
配布資料	チラシ、目録		
	担当学芸員によるギャラリートーク		
関連事業 	日時:4月9日(土)、5月28日(土)、6月25日(土) いずれも14:00~		



展示写真







第3回ギャラリートーク

出品リスト

	27 (1					
No.	作家名	作品名	制作年	素材·形状	寸法(cm)	所蔵先
1	久富邦夫	荻窪風景	1938(昭和13)	油彩・カンヴァス	38.5×45.5	久冨家
2	久富邦夫	研究所の中	1939(昭和14)	油彩・カンヴァス	72.7×60.6	久冨家
3	久富邦夫	山麓のK先生	1939(昭和14)	油彩·板	22.0×27.3	久冨家
4	久富邦夫	十和田湖	1938(昭和13)	油彩·板	22.0×27.3	久冨家
5	久富邦夫	松島風景	1940(昭和15)	油彩·板	22.0×27.3	久冨家
5 6 7	久富邦夫	太海(ふとみ)	1935(昭和10)	油彩·板	22.0×27.3	久冨家
	久富邦夫	武蔵野	1938(昭和13)	油彩·板	22.0×27.3	久冨家
8 9	久富邦夫	都会暮秋	1937(昭和12)	油彩·板	22.0×27.3	久冨家
	久富邦夫	伊豆松崎	1940(昭和15)	油彩・板	22.0×27.3	久富家
10	久富邦夫	河口湖富士	1935(昭和10)	油彩·板	22.0×27.3	久富家 久富家
11	久富邦夫	外房 - 久宗丑像	1936(昭和11)	油彩・板	22.0×27.3	久冨家
12 13	<u>太宰 治</u> 久富邦夫	<u>久富君像</u> 自画像		<u>油彩・カンヴァス</u> 油彩・板	18.0×14.0	<u>久冨家</u> 久冨家
14	<u> </u>	日回塚 モデルと Y 先生	1949(昭和24)	<u>一曲ネジヤルメ</u> 油彩・カンヴァス	33.0×23.6 91.0×72.7	人虽家 久富家
15	<u> </u>	扇	1949(昭和15)	油彩・カンヴァス	91.0×72.7	<u> </u>
16	スロガス 久富邦夫		1940(昭和13)	油彩・カンヴァス	91.0×72.7	人 <u>国家</u> 久富家
17	人 <u>国邦人</u> 久富邦夫		1954(昭和29)	<u> 油彩・カンヴァス</u> 油彩・カンヴァス	130.3×97.0	人国家 久冨家
18	人 <u>国邦人</u> 久富邦夫	<u> </u>	1907(10/10/29)	<u> 油彩・カンヴァス</u> 油彩・カンヴァス	91.0×72.7	人 <u>国家</u> 久富家
10	八田が八	近日ののOEri		川木/ カノファハ	J1.0 × / Z./	八田水
資料						
貝和 No.	作家名		制作年	素材・形状	寸法(cm)	 所蔵先
19	人富邦夫		1986(昭和61)	原稿用紙	寸压(CIII)	久富家
20						人国家 久冨家
			1986(昭和61)			
21	久富邦夫	絵日記	1936(昭和11)	日記		久富家
22	久富邦夫	絵日記	1936(昭和11)	日記		久冨家
23	久富邦夫	「遊心録」		新聞記事		久冨家
	5 = +7 +	[사다가 6파 설]	4074/07/1040)	(掲載紙不明)		
24	久富邦夫	「太宰治の酔筆」	1974(昭和49)	夕刊新佐賀		久富家
25	久富邦夫	「太宰治とは酒仲間だった」	1966(昭和41)	夕刊新佐賀		久富家
26	久富邦夫	アトリエにて		写真		久富家
27		太宰作の書の前にて		写真		久富家
28		小館善四郎と		写真		久冨家
29	太宰 治	『新八ムレット』	1941(昭和16)	書籍		久冨家
30	太宰 治	『二十世紀旗手』	1937(昭和12)	書籍		久冨家
31	小館善四郎	久富邦夫宛 はがき	1978(昭和53)	はがき		久冨家
32	小館善四郎	久富邦夫宛 はがき	1991(平成3)	はがき		久冨家
33	津島美知子	久富邦夫宛 はがき	1997(平成9)	はがき		久冨家
34		「新郷土」	1952(昭和27)	雑誌		久冨家
35	山口亮一	久富邦夫宛 書簡	年不詳(6月15日付)	手紙		久冨家
36		扇	()	写真		久富家
37	久富邦夫	スケッチブック		資料		久冨家
38	人富邦夫 久富邦夫	 「筒井茂雄さんのこと」	1960(昭和35)			人區家 久富家
39	人留邦大 人富邦夫	「思い出」	2003(平成15)	原稿用紙		人国家 久冨家
40	ハ田かん	 納富進個展パンフレット	1944(昭和19)	資料		
	加宣光		` '			
41	納富進	久富邦夫宛 はがき	1951(昭和26)	はがき		久冨家
42	納富進	久富邦夫宛 はがき	1956(昭和31)	はがき		久富家
43		『浮立亭随筆』	1970(昭和45)	書籍		久富家
44		「新郷土 (通算400号)」	1982(昭和57)	雑誌		久冨家
45	-	第6回西虹会目録	1954(昭和29)	目録		久冨家
46	久富邦夫	手帳	1949(昭和24)	手帳		久冨家
47		西虹会同人久富邦夫 近作展		写真		久冨家

展覧会名	佐賀の美術教師たち―地方画壇の成立と美術教育者
展覧会概要	明治から戦後にかけて活動した佐賀県ゆかりの美術教育者たちを3章構成で紹介。 有田に始まり、洋画技法と格闘し、中央画壇からの距離や、作家と教育者という2つのアイデンティティの間で苦悩しながら「未来への橋渡し」役を担った各世代の美術教師たちの現存する作品を展示し、教育面から佐賀の美術史を辿った。会期中は作家の関係者や、異なる立場で美術教育に関わってきた研究者、教育者を招き、トークイベントやギャラリートークを開催した。
会期	平成28(2016)年5月20日(金)~7月10日(日) _{チラシ}
開館日数	45日間
会場	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室
主催	佐賀大学美術館
協力	佐賀県立美術館
展示構成	絵画35点、日本画17点、彫刻3点、陶磁器4点、その他資料7点 計66点
入館者数	4,958名
広報物	チラシ、ポスター、外看板、HP、FB
配布資料	チラシ、目録
関連事業	講演会「近代日本の美術教育者―佐賀について」 日 時:6月4日(土) 13:00~15:30 講 師:金子一夫氏(茨城大学特任教授) 会 場:佐賀大学教養教育1号館 129番教室 オープニングトーク 「佐賀の美術教師たち」 日 時:5月20日(金)10:00~ 会 場:佐賀大学美術館1階 トークイベント 「美術教育―3つの視点」 日 時:6月11日(土)13:00~17:00(途中休憩あり) 出 演:野中耕介氏(佐賀県立美術館学芸員) 平江 潔氏(佐賀県立大和特別支援学校教諭) 栗山裕至氏(佐賀県立大和特別支援学校教諭) 栗山裕至氏(佐賀大学教育学部教授) 会 場:佐賀大学経済学部4号館 4番教室 担当学芸員によるギャラリートーク 日 時:5月28日(土)、6月18日(土)、7月9日(土)いずれも13:00~







展示写真

ギャラリートーク



講演会



トークショー

44	밂	17	K

一直リスト						
o. 作家名	タイトル	制作年	素材·形状	寸法(cm)	出品歴	所蔵先
章 図画教育のあけぼの	FALLESS A.					
	「勉脩學舎」			53x155		佐賀県立有田工業高等高校
川崎千虎	有栖川宮熾仁親王殿下御親筆扁額 淡彩人物図		紙本着色	34x54		有田町歴史民俗資料館
納富介次郎	漢菜図	1916(大正5)	和本有已 絹本着色	126.5x32.6		佐賀県立美術館 佐賀県立美術館
原型:寺内信一		1916(人正3)		120.3x32.0		
製作:寺内信平	白磁観音像		白磁器/陶彫	H65		個人蔵
寺内信一	寿星像		磁器焼締め/陶彫	H13.5		個人蔵
寺内信一	蝦蟇仙人		磁器焼締め/陶彫	H14		個人蔵
		1890-1920	·			
徳見知敬	古伊万里様式 陶磁器図案集より	(明治20-大正10頃)	墨·紙(一部彩色)	各23.7x30		佐賀県立美術館
図案:藤井豊(紫水)	大正天皇御大典記念	,	ザツ/主	46 Ev27 E		 / / / / / / / / /
製作:加藤金和	菊花紋章入桐鳳鶯浮彫染付花瓶		磁器/壺	46.5x27.5		佐賀県立有田工業高等学校
腹巻勝太郎(丹丘)	秋の女神		紙本着色	130x62		個人蔵
腹巻勝太郎(丹丘)	落花		紙本着色	130x64		個人蔵
腹巻勝太郎(丹丘)	腹巻丹丘の学生による絵日記		墨·紙(一部彩色)/冊子			個人蔵
井芹一二(蘇泉)	源氏物語絵		絹本着色	112x35.5		個人蔵
鶴 清気 (精屋)	清流		油彩・カンヴァス	62.5x132		佐賀県立美術館
鶴 清気 (精屋)	達磨図		紙本墨画	133x63		個人蔵
	寄書(似顔)軸	1913(大正2)	紙本墨画	130x40		個人蔵
森 三美	筑後風景	1910(明治43)頃	油彩·板	22.2x31.6		個人蔵
森三美	河岸放牛図	-310(·///LI 13/9K	鉛筆·紙	28.5X38.3		個人蔵
坂本繁二郎	河岸放牛図		鉛筆·紙	45.0X52.1(紙寸)		石橋美術館
75个2000	A.F.グレース		北二年 作込	⊤ン・∪ハンと・1(刑, '\')		
	『油彩風景画の指南書』	1885 ロンドン(第2版)				石橋美術館
	『英国絵画』	1902 ロンドン				石橋美術館
	森三美教員検定願添付「履歴書」	1900(明治33)				個人蔵
長井智覚(天璋)	佐用姫	1900(91/1199)	絹本着色	140 x 56		恵日寺
長井智覚(天璋)	風凰図屏風 「風凰図屏風		2曲屏風	91x171		恵日寺
		1026(+==-)			取徳十乙寿林屋 1 722	
中尾蔦一	洛外早春	1926(大正元)	網本着色 紹士業会	165.5x222(額寸)	聖徳太子奉賛展 入選	鹿島市蔵
中尾蔦一	母と子	1928(昭和3)	絹本着色	124.5x79		個人蔵
中尾蔦一	婦人像(香の像)		絹本着色	114.5x86.5		個人蔵
中尾蔦一	写生画帳					個人蔵
中尾蔦一	中学校用国文教科書	1928(昭和3) 冨山房				個人蔵
	中尾蔦一履歴書					個人蔵
佐々木義政	ペスタロッチとシュタンツの孤児:	1951(昭和26)	油彩・カンヴァス	98x123(額寸)		鹿島市蔵
	K.グローブ作品模写	1931(-01020)	/шл <i>у 132 37 7</i> /	JOXIES (IR 1)		/ECILI)*12/800
章 作家として 教師として						
山口亮一	図画の時間	1914(大正3)	油彩・カンヴァス	33.3x45.2		佐賀県立美術館
山口亮一	鳥と子供	1922(大正11)	油彩・カンヴァス	161.7x96.7	第4回帝展 入選	佐賀県立美術館
大江寅五郎	男の像		油彩·板	33.2x23.8		佐賀県立美術館
田中宗一	風景	1946(昭和21)	水彩·紙	50.2x68.1		個人蔵
田中宗一	ひまわり	1948(昭和23)	水彩·紙	48.1x57.4		佐賀県立美術館
田中宗一	水仙	1950(昭和25)	水彩·紙	28.4x19.2		個人蔵
田中宗一 若林景光	ユーカリ樹のある庭	1955(昭和30)	油彩・カンヴァス	38.1x45.6		佐賀大学美術館
若林景光	北山浅春	1965(昭和40)	油彩・カンヴァス	53.0×72.8		佐賀大学美術館
川浪養治	マナヅル	1303(*11/11-0)	紙本着色	108.4x76.4		佐賀県立美術館
小栗 潮	収穫の風景					佐賀県立美術館
			紙本着色	128.6×157.5		
平嶋信	鬼丸風景		油彩・カンヴァス	37.9x45.7		佐賀県立小城高等学校黄城
北嶋兵一	龍		紙本墨画	120x42		個人蔵
北嶋兵一	海水浴	1909(明治42)	水彩·色紙	36x57		個人蔵
北嶋兵一	風景	1912(大正元)	水彩·色紙	66.1x80.6(額寸)		個人蔵
北嶋兵一	ざくろ	1947(昭和22)	油彩·板	49.9x65.3		個人蔵
北嶋兵一	落合風景	1956(昭和31)	油彩・カンヴァス	45.5x53		個人蔵
北島浅一	雪景	1926(大正元)	油彩・カンヴァス	45.5x53		個人蔵
石本秀雄	校庭の春	1934(昭和9)	油彩・カンヴァス	112x145		佐賀県立小城高等学校
宮地 亨	精油工場	1950年代初	油彩・カンヴァス	97.4x130		佐賀県立美術館
高柳種行	黒い牛	1954(昭和29)	油彩・カンヴァス	91x116.5		佐賀県立美術館
武藤辰平	フランス風景	1931-34(昭和6-9)	油彩・カンヴァス	116.5x116.3		佐賀県立美術館
武藤辰平 武藤辰平		1931-34(昭和6-9)		86x111		個人蔵
			油彩・カンヴァス			
武藤辰平 武藤辰平	睡蓮: モネ作品模写	1931-34(昭和6-9)	油彩・カンヴァス	60.6x72.8		個人蔵
武藤辰平	カルタ取り: セザンヌ作品模写	1931-34(昭和6-9)	油彩・カンヴァス	46x55		個人蔵
武藤辰平	花:ルドン作品模写	1931-34(昭和6-9)	油彩・カンヴァス	61x61.1		個人蔵
武藤辰平	果物:ボナール作品模写	1931-34(昭和6-9)	油彩・カンヴァス	55.2x55.3		個人蔵
村岡平蔵	夏の果物		油彩・カンヴァス	37.8x45.6		佐賀大学美術館
山口孝行	画室		油彩・カンヴァス	162.0×130.3		佐賀県立美術館
章 美術教育の志						
石本秀雄	画家の家族	1951(昭和26)	油彩・カンヴァス	194x130	第7回日展 特選·朝倉賞	佐賀県立美術館
杉本好守	卓上静物	1954(昭和29)	油彩・カンヴァス	60.3x91	第20回記念東光会展 入選	唐津市近代図書館
	男の顔	エノンマ(ドロイロとフ)	ブロンズ	35x35x75	az=0回0心本ル五灰 八巻	佐賀大学美術館
		1077/R7#RF3\			第0回日展 特恩	
	きこえる	1977(昭和52)	樹脂	35x35x165	第9回日展 特選	佐賀県立美術館
井手誠二郎	学芸会	1951(昭和26)	石膏	24x40x135	第1回佐賀県展 教育委員会賞	作家蔵
深川善次	静物	1950(昭和25)	油彩・カンヴァス	73x91		作家蔵
深川善次	洗濯	1955(昭和30)	油彩・カンヴァス	97x130	第5回佐賀県展 鹿島市長賞	作家蔵
深川善次	「この子は一人よ」	1989(平成元)	色鉛筆·紙	25.6x18.2		作家蔵

展覧会名	佐大の工芸―平成27年度新収蔵品による	2016 7/23日 平成27年度 佐 新収歳品による 七
展覧会概要	平成27年度に新しく収集した作品の中から、佐賀大学の工芸分野で教鞭をとった旧教員の作品を紹介した。 染色教室の初代教員である城秀男と、その後を継いだ小川泰彦の屏風。佐賀大学特別教科教員養成課程の開設にあたり招聘された豊田勝秋の鋳金作品。佐賀で多くの後進を育てた瀧一夫と、教え子で窯芸教室を引き継いだ宮尾正隆の壷など、5作家による6点を展示した。	製物機構 工 会 会 会 の の の の の の の の の の の の の
会期	平成28(2016)年7月23日(土)~11月20日(日)	チラシ
開館日数	101日間	
会場	特別展示室	
主催	佐賀大学美術館	
展示構成	陶器2点、磁器1点、屏風2点、鋳金1点 計6点	
入館者数	4,389名	
広報媒体	チラシ、ポスター、外看板、HP、FB	
配布資料	チラシ、目録	
展示写真		

出品	リスト						
No	作家名	作品名	制作年	寸法(cm)	素材	出品歴	寄贈者
1	城 秀男	豊	1967(昭和42)	144×162	二曲屏風	第10回日展 特選	堀直子氏
2	小川泰彦	不知火の有明	1978(昭和53)	170×140	二曲屏風	改組第10回日展	小川泰彦氏
3	瀧 一夫	萌黄釉角壺	1967(昭和42)	30 x 24 x 24	陶器		文化教育学部
3	ルス	明典和用亞	1907(昭和42)	30 X 24 X 24	四百百		より管理替
4	瀧 一夫	緑釉壺		30 x 27 x 27	陶器		文化教育学部
4	/能 大	市水水田宝芒		30 X 27 X 27	四台		より管理替
5	豊田勝秋	鋳銅瓶(糸目)	1966(昭和41)	32.7 x 24.3	鋳金	第9回日展	文化教育学部
3	豆叫肦伙	姆则加(木日)	1900(昭和41)	32.7 X 24.3	列並	第7四口茂	より管理替
参考出	 比品						
6	宮尾 正隆	層	2002(平成14)	45×32	磁器		
			,				

出品リスト

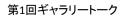
	H // \1							
No	作家名	作品名	制作年	寸法(cm)	素材	出品歴	寄贈者	
1	城 秀男	豊	1967(昭和42)	144×162	二曲屏風	第10回日展 特選	堀直子氏	
2	小川泰彦	不知火の有明	1978(昭和53)	170×140	二曲屏風	改組第10回日展	小川泰彦氏	
2	瀧 一夫	萌黄釉角壺	1967(昭和42)	30 x 24 x 24	r/= 9.0		文化教育学	
<u> </u>	ル 大	明與個用亞	1967(中42)	30 X 24 X 24	阿谷		部より管理替	
1	瀧 一夫	夫 緑釉壺		20 y 27 y 27	吃 。		文化教育学	
4	ル 大			30 x 27 x 27	両		部より管理替	
5	豊田勝秋	鋳銅瓶(糸目)	1066(四和11)	22 7 4 24 2	₽	第9回日展	文化教育学	
<u> </u>	豆口份伙	好驯瓜(木日)	1966(昭和41)	32.7 X 24.3	对立	年7 四口茂	部より管理替	
参考								
6	宮尾 正隆	層	2002(平成14)	45×32	磁器			
<u> </u>		′ -	2002(1/3/21)	.002	РДД НН			

展覧会名	久富邦夫 <佐賀>一創造の旅	· ·	久宣	
展覧会概要	春に開催した「久富邦夫〈東京〉―太宰と出会った修業時代」 の第2弾。応召、終戦を経て佐賀に拠点を移した久富の作品を 紹介した。 佐賀の郷土芸能をモデルとしたスケッチや作品、その制作過程が 分かるエスキースや映像資料、絶筆となった「しあわせなら手を (2009)」までを公開し、久富が故郷の美術界にどんな影響をも たらしたのかを当時の資料から紐解いた。	2006年11月25日[金] → 2017年3月25日[土]	富善邦夫〈佐賀〉創造の旅	
会期	平成28(2016)年11月25日(金)~平成29年3月25日(土)	THE SAGA UNIVERSITY AST PUBLISH	チラ	シ
開館日数	95日間			
会場	特別展示室			
	佐賀大学美術館			
	久富家、唐津市近代図書館			
	絵画15点、陶器3点、資料33点、映像作品3点 計54点			
	4,191名 			
	チラシ、ポスター、外看板、HP、FB			
配布資料	チラシ、目録 			
明净基类	担当学芸員によるギャラリートーク 日 時:平成28年12月18日(日)11:00~			
関連事業	平成29年 1月21日(土)14:00~			
	参加者数:1回目6名/2回目7名			



展示写真







第2回ギャラリートーク

H1.5	品リスト					
	作品名	制作年	材質·形状	寸法(cm)	出品歴	所蔵先
1	絵のある部屋	1958(昭和33)	油彩・キャンバス	145.5×97	第1回新日展	久富家
2	松島風景	1940(昭和15)	油彩·板	22×27.3	郷土作家油絵展	久冨家
3	絵皿		磁器	口径24.4		久冨家
4	絵皿		磁器	口径30		久冨家
5	昭和45年成人式記念品	1970(昭和45)	磁器	口径23.5		久冨家
6	祭の日	1974(昭和49)	油彩・カンヴァス	162×130.3	第6回改組日展	久冨家
7	白髪神社田楽		水彩·紙	27.2×24.2		久冨家
8	文楽		水彩·紙	27.2×24.2		久冨家
9	面浮立		水彩·紙	27.2×24.2		久富家
10	黒牟田のぼり窯	(0772)	水彩·紙	27.2×24.2		久富家
11	赤い鉄橋	1960(昭和35)	油彩·板	24.3×33.4		久冨家
12	根子岳	1960(昭和35)	油彩・板	24.3×35		久冨家 久冨家
13	ほりばた(公会堂と文化館)	1951(昭和25)	油彩・板	21.8×27	W. CO	大量家 佐賀大学医学部
	春の山	2007(平成19)	油彩・カンヴァス	130.3×162	第69回一水会展	附属病院
15	レストラン	1995(平成7)	油彩・カンヴァス	130.3×162	笠は同一小人屋(佐笠)	久富家
16 17	しあわせなら手を 無題(人形)	2009(平成11)	<u>油彩・カンヴァス</u> 油彩・カンヴァス	116.6×91.6 18×14	第71回一水会展(絶筆)	<u>久富家</u> 久富家
18	無趣(ヘル) 人形と尾崎人形		水彩・紙	24.2×27.2		久富家
10	スルC 毛剛 スル		小木〉、心	24.2 ^ 2 / . 2		八田水
資料						
No.	資料名	制作年	材質·形状	寸法(cm)	制作·発行元	所蔵先
19	郷土作家油絵展目録	1946(昭和21)	目録		第80回佐賀美術協会展記念誌より	久冨家
20	賑わう " 郷土作家油絵展"	1946(昭和21)	新聞記事		ע אסימונואני	
_		12.3 1946(昭和21)				
21	郷土作家油絵展	11.30	新聞記事			
22	第1回西虹会ポスター	1949(昭和24)				久富家
23	第7回西虹会ポスター	1955(昭和30)				久冨家
24	西虹会画展ひらく	1950(昭和25) 4.26	新聞記事			
25	西虹会を結成	1949(昭和24) 5.6	新聞記事			
26	スクラップブック		資料	30.3×19.9		久冨家
27	第6回西虹会目録	1954(昭和29)	資料	18.3×46.3		久冨家
28	教師時代の久富邦夫		写真			久冨家
29	第13回美術科総合展目録	1970(昭和45)	目録	59×41.8		久冨家
30	あの頃	1987(昭和62)	原稿用紙	25.1×35.7(4枚)		久冨家
31	佐賀大学教育学部 特設美術科要覧	1956(昭和31)	資料	27.1×51.5		久冨家
32	新郷土9月号	1952(昭和32)	雑誌		佐賀県文化館	
	「陶画創造の一こま」	,		25 7 40 7		
	新郷土12月号	1952(昭和32)	雑誌	25.7×18.7	佐賀県文化館	
34		2016(平成28)	写真		 	<i>什</i> 智士学学统统
35 36	松枝神社奉納浮立の様子 新郷土3月号	1971(昭和46)	<u>写真</u> 雑誌	25.7×18.3	佐賀大学美術館 新郷土刊行協会	佐賀大学美術館 久冨家
	新郷土3月号 新郷土9月号表紙の				かかと上げけ伽式	
37	エスキース	1954(昭和29)	水彩·紙	27×38.1		久冨家
38	<u> </u>	1954(昭和29)	雑誌		佐賀県文化館	
	甲柳原面浮立風俗	()				力写字
39	(小城市)		写真			久冨家
40	岩栗神社にて	1955(昭和30)	写真			久冨家
41	スケッチブック		水彩·紙	26.2×33.7		久冨家
42	「春の山」のエスキース		水彩·紙	23.6×32.9		久富家
43	「レストラン」のエスキース		水彩·紙	25×33.3		久冨家
44	「レストラン」のエスキース	1	水彩·紙	25.8×32.8		久冨家
45	エスキースに使用した雑誌の切り抜き	1	紙			久冨家
46	「レストラン」資料写真		写真	8.2×11.9		久冨家
47	尾崎人形		陶器	12.2×6.5×9.9		久富家
48	久富邦夫の絵筆、					久冨家
49	ペインティングナイフ、万年筆 新郷土7月号	1987(昭和62)	雑誌	25.7×18.3	新郷土刊行協会	久冨家
49 50	<u> 新郷エ7月号</u> 制作の様子	170/(中山102)		8.2×11.7	かパルエリリカ加云	久昌家 久冨家
51	アトリエにて		_ 写真	0.2^11./		久富家
	STSニュースレポート	100=1777		- ()		
52	久富邦夫回顧展インタビュー	1985(昭和60)	映像 	5分 ————————————————————————————————————	サガテレビ	久冨家
53	白鬚神社の稚児田楽 資料映像	2016(平成28)	映像	3分48秒	佐賀大学美術館	佐賀大学美術館
54	久富邦夫〈東京〉	2016(平成28)	 映像			佐賀大学美術館
J4	展示風景	ZUIU(十以ZZØ)	水水	J/J 13f9	社共八十天 彻跖	<u> </u>

(3)企画申請事業展示記録

展覧会名	幕末維新期の小城一書聖・中林梧竹の生きた時代		
展覧会概要	佐賀大学と旧小城町(現小城市)の交流協定に基づき毎年行われている、小城地域の歴史に関する企画展のプレイバック企画。本展では、佐賀大学附属図書館が所蔵する「小城鍋島文庫」の史料から、幕末の小城藩の様子や明治の書聖・中林梧竹に関連する古文書、古記録、パネル等を、佐賀大学美術館と菊楠シュライバー館の2か所で展示した。		
会期	平成28(2016)年7月15日(金)~8月10日(水)		
開館日数	23日間		
会場	(第1会場)佐賀大学美術館 2 階 小展示室 (第2会場)佐賀大学菊楠シュライバー館		
· 主催	佐賀大学地域学歴史文化研究センター		
展示写真			

展覧会名	芸術表現基礎・地域デザイン基礎 成果発表展
展覧会概要	佐賀大学芸術地域デザイン学部の1年生が、前期授業内で制作した成果を発表した。 館内だけでなく、美術館の周囲にも竹でつくられたオブジェを展示したほか、オープンキャンパスで は学生によるギャラリートークを開催した。
会期	平成28(2016)年7月23日(土)~8月10日(水)
開館日数	16日間
会場	ギャラリー 1 、ギャラリー 2 、スタジオ、中庭
主催	佐賀大学芸術地域デザイン学部
展示写真	

展覧会名	楢崎重視と東光会佐賀支部展◇画業60年米寿記念◇		
展覧会概要	佐賀師範学校(本科)を卒業し日展、東光会で活躍を続ける楢崎重視の作品を中心に、 1951年石本秀雄氏によって結成された東光会佐賀支部緑光会を紹介する展覧会。洋画 93点が展示され、会期中には楢崎氏によるギャラリートークや緑光会の夏季研究会も一般公 開された。		
会期	平成28(2016)年8月19日(金)~28日(日)		
開館日数	9日間		
会場	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ		
主催	東光会佐賀支部緑光会		
共催			
展示写真			

展覧会名	佐賀大学教育学部附属特別支援学校 第1回 児童生徒作品展
展覧会概要	佐賀大学教育学部附属特別支援学校の活動を紹介する展覧会。 小学部から高等部までの児童・生徒58名が日頃の授業で制作した水彩画や版画、立体作 品、作業作品など約110点のほか、教職員6名による作品も数点展示した。
会期	平成28(2016)年9月2日(金)~11日(日)
開館日数	9日間
会場	ギャラリー1、ギャラリー2
主催	佐賀大学教育学部附属特別支援学校
展示写真	

展覧会名	S-YOU-GA展		
展覧会概要	佐賀大学芸術地域デザイン学部西洋画専攻と崇城大学芸術学部洋画コース(熊本県)の合同企画展。両大学の学生と教員ら約50名による53点の絵画が美術館で展示されたほか、関連して佐賀市内の「ギャラリー憩ひ」でも小作品が展示された。		
会期	平成28(2016)年9月17日(土)~22日(木·祝)		
開館日数	5 日間		
会場	ギャラリー 1 、ギャラリー 2 、スタジオ		
· 主催	佐賀大学芸術地域デザイン学部(西洋画専攻)/崇城大学芸術学部(洋画コース)		
展示写真	S-YOU-GAR # 9 170 - 228		

展覧会名	ダイアログ・イン・ザ・ダーク 佐賀2016	
展覧会概要	視覚障がい者の案内のもと、暗闇の中で視覚を用いずに行うゲームなどを通して、五感の豊かさや人の温かさ、コミュニケーションの大切さ等を感じる体験型イベント。参加は予約制で、平日は佐賀市内の小学生360名がクラス単位で、土日は一般からの応募者が参加した。	
会期	平成28(2016)年9月30日(金)~10月9日(日)	
開館日数	8日間 ※台風18号で参加校が休校となったため1日休み	
会場	ギャラリー 1 、ギャラリー 2 、スタジオ	
主催	佐賀県/特定非営利活動法人ダイアローグ・ジャパン・ソサエティ(協働型委託)	
展示写真	RACCI AT THE SAME RIVER.	

	1		
展覧会名	国際大学折紙連盟(ICOA)作品展		
展覧会概要	国際大学折紙連盟が、大学の折り紙サークルの恒常的な継続とグローバルな発展を目的に開催している展覧会。 国内外の実力ある学生・作家の折り紙作品約280点が一堂に会し、今までの折り紙のイメージを払拭する最先端の折り紙作品が展示された。		
会期	平成28(2016)年10月14日(金)~30日(日)		
開館日数	15日間		
会場	スタジオ		
主催	折紙探偵団九州友の会		
共催	国際大学折紙連盟(ICOA)		
協賛	おりがみはうす/ソシム㈱/日本ヴォーグ社/㈱主婦と生活社/ナツメ出版企画㈱/㈱日本評論 社/㈱西東社/㈱日貿出版社		
展示写真			

展覧会名	第7回 璞友会展
展覧会概要	佐賀県内で書や水墨画を学んでいる璞友会による展覧会。 指導者とメンバー27人による、墨跡鮮やかな約50点の山水画や書が展示された。
会期	平成28(2016)年10月18日(火)~23日(日)
開館日数	6日間
会場	ギャラリー1、ギャラリー2
主催	璞友会
展示写真	

展覧会名	平成28年度 JA共済 小・中学生第52回書道・第42回交通安全ポスターコンクール
	JA共済が文化支援事業として毎年実施している全国規模のコンクールの入賞作品展。
展覧会概要	当館では応募された書作品(半紙22803点、条幅2691点)およびポスター(5128点)の中
	から、入選・入賞を果たした324点を展示した。
会期	平成28(2016)年10月27日(木)~11月3日(木·祝)
開館日数	7日間
会場	ギャラリー 1 、ギャラリー 2
主催	農業協同組合/全国共済農業協同組合連合会佐賀県本部
	La Company of the Com

展示写真





展覧会名	第5回 佐賀大学コンテンツデザインコンテスト 特別企画 「日本アニメーションの過去・現在・未来」
展覧会概要	戦前から日本のアニメーション制作に関わり、「人形アニメーションの父」と呼ばれた佐賀出身の 持永只仁氏を顕彰する展覧会。持永氏が手掛けたアニメーションの上映と、撮影に使われた 60体以上の人形を展示した。さらにトークショーや国内の27のアニメーション学科が参加する学 生アニメの祭典「ICAF2016」の巡回上映も行った。
会期	平成28(2016)年11月8日(火)~19日(土)
開館日数	11日間
会場	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室
主催	佐賀大学コンテンツデザインコンテスト実行委員会
共催	佐賀大学地域環境コンテンツデザイン研究所/デザイン思考研究所共創ラボ/C-revo in Saga

展示写真





展覧会名	第58回 総合展		
展覧会概要	本学の美術・工芸課程3年生を中心に運営される、伝統ある学生による総合美術展。大学 美術館での開催は今回が4回目で、芸術地域デザイン学部創設後としては初となる。 例年3年生が中心となって運営し、今年も文化共育学部の学生や院生による、専攻の枠を 越えた様々な作品が展示された。		
会期	平成28(2016)年11月24日(火)~12月4日(日)		
開館日数	10日間		
会場	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室		
主催	佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程/芸術地域デザイン学部		
展示写真			

展覧会名	第57回 佐賀県学童美術展
展覧会概要	佐賀県内の就園児および小・中学生を対象にした作品展で、今年から佐賀大学美術館での開催となった。子供たちによるが感性と創造力に溢れる絵画、線描、デザインの県特選作品645点が展示され、会期中には表彰式と、本学教育学部の栗山裕至教授による造形ワークショップが行われた。
会期	平成28(2016)年12月13日(火)~12月18日(日)
開館日数	6日間
会場	ギャラリー 1 、ギャラリー 2 、スタジオ
主催	佐賀県造形教育研究会
展示写真	

展覧会名	Sブリュット公募展 もうひとつのものさし展
展覧会概要	佐賀県在住または佐賀県でアート活動を行う障がい者から作品を公募し、入選・入賞した20名の作品を展示した。 アクリル絵具、色鉛筆、ペン画など、自由な素材とテーマで制作された21点の作品が展示された。
会期	平成29(2017)年1月7日(土)~1月15日(日)
開館日数	8日間
会場	小展示室
· 主催	社会福祉法人はる
展示写真	

展覧会名	第32回 佐賀県高等学校美術教師作品展 第6回 佐賀県高等学校美術科授業生徒作品展「これが高校美術だ!」
展覧会概要	佐賀県内の高校で美術を教える教師たちによる展覧会。 併せて高校美術における成果を広く一般に発表し、高校で美術を学ぶ意義を伝えることを目的 として第6回目となる授業生徒作品展も同会場内で開催された。
会期	平成29(2017)年1月18日(水)~1月22日(日)
開館日数	5日間
会場	ギャラリー 1 、 ギャラリー 2 、 スタジオ
主催	佐賀県高等学校教育研究会 芸術部会 美術部会
展示写真	

展覧会名	第41回 佐賀県高等学校書道教師書作展
展覧会概要	佐賀県内の高校で書道を担当する教師が授業研究会の他に、年に一度の作品発表の場として開催している展覧会。日頃の研鑽の成果として37名が54点の書や掛軸を展示した。 また、高校書道部、選択授業の生徒の学習成果の一端として県高等学校生徒臨書展の優
	秀作品も展示された。
会期	平成29(2017)年1月25日(水)~1月29日(日)
開館日数	5日間
会場	ギャラリー1,ギャラリー2、スタジオ
主催	佐賀県高等学校教育研究会書道部会
共催	佐賀県高等学校文化連盟書道専門部
展示写真	

展覧会名	第57回 生徒立体作品展
	第48回 佐賀市教職員美術展
	佐賀市内の小・中学校の児童生徒作品と図工・美術を指導する教員及び退任者による作品
展覧会概要	展。当館では初の開催となった本展では、児童生徒により288点、教職員12名により13点の
	作品が展示された。
 会期	
開館日数	7日間
会場	<u>, ^ </u>
· 主催	佐賀市教科等研究会図工·美術部会
展示写真	

展覧会名	第61回 佐賀大学文化教育学部美術·工芸課程卒業制作展 第23回 佐賀大学院教育学研究科修了制作展
展覧会概要	佐賀大学で制作を続けてきた39名の卒業生・修了生(学生36名、院生3名)による、学生生活の集大成となる作品展。西洋画、日本画、デザイン、彫塑、染色工芸、窯芸、木工・漆工、美術史・美術理論の8専攻から作品40点、論文8点が出品された。
会期	平成29(2017)年2月17日(金)~2月26日(日)
開館日数	9日間
会場	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、小展示室
主催	佐賀大学文化教育学部美術·工芸課程/佐賀大学大学院教育学研究科
展示写真	

展覧会名	佐賀大学デジタル表現技術者養成プログラム第7期生修了作品展「電脳芸術展」
展覧会概要	佐賀大学で「デジタル表現技術者養成プログラム」を受講した学生による修了制作展。 7回目となる今回も、多彩な動画や、来館者が操作できる双方向型作品等19点が集まり、学 生達の感性と、2年間の学びの成果が伝わる展示となった。
会期	平成29(2017)年3月2日(木)~3月5日(日)
開館日数	4日間
会場	ギャラリー1、ギャラリー2、小展示室
主催	佐賀大学クリエイティブ・ラーニングセンター
展示写真	

展覧会名	佐賀大学大学院都市工学専攻·理工学部都市工学科 修士制作·卒業制作展
展覧会概要	佐賀大学理工学部都市工学科で学んだ学部4年生と大学院2年生の集大成である卒業制作・修士制作展。社会に潜む問題を提起し、新たな建築を提案しようとするもの。6回目となる今回は建築模型やプレゼンボードなど11作品を展示した。
会期	平成29(2017)年3月4日(土)~3月12日(日)
開館日数	8日間
会場	スタジオ
主催	佐賀大学大学院都市工学専攻·理工学部都市工学科
展示写真	

展覧会名	田中嘉生教授退任記念展
展覧会概要	佐賀大学で23年にわたり染色教室で教えた田中嘉生教授の退任を記念した展覧会。当館で初の現役教授の退任記念展である。田中教授の蝋染め、糊染めによる代表作46点を公開し、これまでの軌跡を辿った。更に教え子たちの歴代の卒業制作作品などをスライドで紹介した。
会期	平成29(2017)年3月15日(水)~25日(土)
開館日数	10日間
会場	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
· 主催	佐賀大学文化教育学部美術·工芸課程/田中嘉生教授退任記念展実行委員会
展示写真	

(4) 実習·研修

概要

平成28年4月の芸術地域デザイン学部開設に伴い、地域デザインコースが設けられ、大学美術館における博物館実習生の受け入れも変化した。平成28年度は学芸員資格取得希望者22人を受け入れ、①資料整理、②監視、③資料取扱の3種類の実習を館内で行い、①②について美術館学芸員が非常勤講師として担当した。

また、3月には初めて中学生の職場体験を受け入れた。

実習·研修名	博物館実習① 資料整理実習
内容	美術館が調査中の個人所蔵の写真について、調書を作成する実習。 実習生は事前に服装や道具類を準備し、当日はグループ内で役割分担をして、資料の採寸や 状態の記録を行った。 (実習生1人あたり90分×2回)
期間	平成28(2016)年10月19日(水)〜11日(金)までの水曜および金曜 14:40〜16:10 ※説明会10月12日(水)14:40〜
参加者	22名
写真	説明会

実習·研修名	博物館実習② 監視実習
内容	館主催事業を教材に、監視および来館者対応の実習を行った。 「久富邦夫<佐賀>―創造の旅」(平成28年11月25日(金)〜平成29年3月25日(日))の 会期中、展示室内の作品、来館者、環境の保全を意識するとともに、来館者対応を行い、気 付いたことをレポートにまとめた。 (実習生1人あたり60分×3回)
期間	平成28(2016)年11月25日(金)~平成29(2017)年1月12日(木) ※説明会11月16日(水)14:40~
参加者	22名
写真	説明会

実習·研修名	博物館実習③ 資料取扱実習
内容	美術館が調査中の個人所蔵の書籍などの資料を用いて、芸術地域デザイン学部・石井准教授の指導のもと、基本的な資料の取り扱い方法を学んだ。 帽子、マスク、白手袋を着用し、3人一組のグループで役割分担をし、資料の消毒、採寸、記録を行った。
期間	平成28(2016)年12月17日(土) 14:40~16:10
参加者	22名
写真	

実習·研修名	中学生職場体験
内容	龍谷中学校2年生の職場体験を受け入れた。 「美術館を知ろう」「美術館の環境を整えよう」の2つのテーマに基づき、開館・閉館に関わる作業 や広報物の管理等、美術館の業務に携わった。
期間	平成29(2017)年3月8日(水) 9:30~16:00
参加者	1名
写真	RI DRU

(5)刊行物

〔刊行物〕

図録「佐賀の美術教師たち―地方画壇の成立と美術教育者」

《概要》テキスト:近代日本における佐賀県の中等学校図画教育 金子一夫(茨城大学特任教授)

展示概要/カタログ/年表/参照文献/出品リスト

《仕様》B5版64ページ4色刷

《発行部数》1,000部

《発行日》平成28年5月20日



「佐賀大学美術館 平成27年度年報/紀要」

《概要》年報+紀要

《仕様》AB版 54ページ 4色刷

《発行部数》500部

《発行日》平成29年3月24日



(6) 広報

[掲載紙・テレビ・ラジオ]

※平成28年度は総数で新聞等 件, TV・ラジオ 件が掲載・放送された。 本稿では館主催事業についての報道のみ抜粋して紹介。

- ・展覧会情報「久富邦夫〈東京〉―太宰と出会った修業時代」
 (2月26日,3月21日・27日・29日,4月9日・20日・29日,6月5日・9日・21日・28日佐賀新聞/6月2日・16日,7月7日朝日新聞/6月3日・10日,7月8日読売新聞)
- ・展覧会情報「芸術地域デザイン学部開設記念展~芸術で地域を拓く,芸術で世界を拓く」(3月29日,4月9日・19日・26日佐賀新聞)
- ・太宰治の油絵初公開(4月3日佐賀新聞)
- ・ニュース「久富邦夫展」(4月10日NHK)
- ・サンデーアート「地域、世界とつながる佐賀大学美術館」(4月3日長崎新聞)
- ・新人3教員多様な世界観(4月12日佐賀新聞)
- ・軽やかさと落ち着いた色彩青年から壮年期の作品47点(4月15日佐賀新聞)
- ・太宰の油絵初公開友人の画家がモデル(4月28日東奥日報)
- ・展覧会情報「佐賀の美術教師たち―地方画壇の成立と美術教育者」 (4月29日,5月9日・20日,6月5日・19日・20日・28日佐賀新聞/7月 7日朝日新聞)
- ・有明抄「虚栄にはじまり喝采に終わる」(5月26日佐賀新聞)
- ・ニュース「佐賀の美術教師たち」(5月26日サガテレビ)
- ・大学ミュージアム創意工夫(5月30日東京朝日夕刊)
- ・地方美術支えた教育力,作家力(5月31日佐賀新聞)
- ・ニュース「美術教師の作品展」(6月4日 NHK)
- ・ニュース「久富邦夫氏展示会」(6月8日サガテレビ)
- ・太宰治の油絵初公開 (7月7日西日本新聞)
- ・展覧会情報「佐大の工芸―平成27年度新収蔵品を中心に」(7月29日,8月6日・30日・31日,9月30日佐賀新聞/9月8日・15日・22日・29日,10月6日朝日新聞)
- 佐賀大元教員の工芸品展(9月1日夕刊読売新聞福岡版)
- ・ニュース「佐賀大学工芸分野の教員作品展」(9月23日 NHK)
- ・展覧会情報「久富邦夫〈佐賀〉―創造の旅」
 (10月28日,11月8日・25日・29日,12月9日・27日,1月16日・3 1日佐賀新聞/11月24日,12月8日,2月2日,3月16日・22日朝日新聞/ 3月6日西日本新聞夕刊)
- ・見る者の記憶引き出す池田学展(3月3日佐賀新聞)
- ・まちかどカレンダー(3月9日佐賀新聞)
- ・家族や祭り日常の美を表現(3月24日西日本新聞)

[掲載誌]

- ・ざっしにあ 2016 年初夏号 Vol. 15 「久富邦夫〈東京〉―太宰と出会った修業時代」
- ・MOTEMOITE さが 2016 年 5 月号 「芸術で地域を拓く、芸術で世界を拓く」
- ・ひかり野佐賀大学附属図書館報 No. 40 「市場直次郎コレクションより花鳥風月に遊ぶ〜近世の絵師と歌人〜」
- ・MOTEMOITE さが 2016 年 11 月号 「第 58 回総合展」
- ・WASABI2016 年 11 月号 「第 58 回総合展」
- ・第四回佐賀市民芸術祭パンフレット 「第58回総合展」
- ・WASABI2017 年 2 月号 「佐賀大学美術・工芸課程卒業修了制作展」

(7) 見学団体・入館者数

〔見学団体一覧〕

※事前連絡もしくは申告にて把握できたもののみ。参加者数に引率者含む。

- ・「アートマネジメント」受講者(4月12日29名)
- 「芸術創造Ⅱ」受講者(4月20日17名)
- ·学校法人旭学園佐賀女子短期大学(4月27日31名)
- ・「アートマネジメント」受講者(5月24日110名)
- ・九州産業大学「美術文化ゼミナール」受講者(4月25日65名)
- ·佐賀大学新採用職員研修(6月1日14名)
- ・開成ボランティアひまわり (6月7日 12名)
- ·福岡県立糸島高等学校2年生(6月16日85名)
- 学校法人佐賀龍谷学園龍谷高等学校(6月18日58名)
- ·福岡県立筑紫中央高等学校 PTA (6月23日52名)
- ·福岡県立朝倉高等学校 PTA (6月23日65名)
- ·長崎県立佐世保東翔高等学校(6月24日125名)
- ・ 久留米市立南筑高等学校 PTA (6月29日32名)
- ·佐賀大学名誉教授懇親会(6月29日70名)
- ·福岡県立福岡工業高等学校 PTA (6月30日45名)
- ・福岡県立糸島高等学校 PTA (6月30日120名)
- ・山口県立下関南高等学校 PTA (7月1日 23名)
- ・熊本県立南関高等学校(7月7日30名)
- ・山口県立下関南高等学校(7月8日81名)
- ・福岡県立山門高等学校(7月12日29名)
- ·学校法人川島学園福岡舞鶴高等学校(7月14日106名)
- ·長崎県立長崎北高等学校(7月28日75名)
- ・鹿児島県立曽於高等学校(8月19日21名)
- 東光会鹿児島支部鹿光会(8月23日12名)
- ·佐賀県立佐賀西高等学校(8月26日12名)
- 保育観察実習(9月2日10名)
- ・いとしま市民大学(9月9日22名)
- · 佐賀市立城東中学校(9月17日19名)
- · 学校法人旭学園佐賀女子短期大学付属佐賀女子高等学校(9月21日42名)
- ・学校法人旭学園佐賀女子短期大学付属佐賀女子高等学校(9月23日8名)
- · 佐賀大学教育学部附属小学校(9月30日107名)
- ·佐賀市立赤松小学校(10月4日104名)
- ·佐賀市立日新小学校(10月6日95名)
- ·佐賀市立西与賀小学校(10月7日47名)
- ・福岡アジア美術館ボランティアグループ (10月15日25名)
- · 佐賀大学教育学部附属小学校(10月20日18名)
- ・佐賀県立三養基高等学校 PTA (10 月 21 日 34 名)
- ·福岡県立新宮高等学校(10月25日43名)
- ·佐賀大学教育学部留学生(10月26日31名)
- ・佐賀県立佐賀商業高等学校(10月28日68名)
- ·佐賀県立香楠中学校(11月17日125名)

- ・福岡県立宗像高等学校 PTA (11 月 24 日 34 名)
- ・佐賀大学芸術地域デザイン学部(11月24日 27名)
- · 佐賀大学教育学部附属中学校美術部(11月25日20名)
- ホームカミングデー(11月26日50名)
- · 九州藝術学会(11月26日55名)
- ・学校法人佐賀美容理容専門学校アイ・ビューティーカレッジ (11月29日20名)
- ・経済学部「入門ゼミ」受講者(11月29日18名)
- ・「地域デザイン基礎(マネジメント)」受講者(12月1日19名)
- ・学校法人旭学園佐賀女子短期大学付属ふたばこども園(12月1日22名)
- · 佐賀市立城東中学校美術部(12月1日18名)
- · 佐賀造形教育学習会(12月10日20名)
- 佐賀大学教育学部附属小学校3年生(12月16日40名)
- ・江北町立江北中学校美術部(12月17日11名)
- ・福祉法人はる(1月14日14名)
- ・保健体育(入学前スクーリング) (1月20日10名)
- ·佐賀県立致遠館高等学校(1月25日24名)
- · 学校法人佐賀清和学園佐賀清和高等学校(1月26日27名)
- ·佐賀県立佐賀西高等学校(1月27日34名)
- ·学校法人佐賀清和学園佐賀清和高等学校1年生(1月27日28名)
- ·佐賀県立佐賀西高等学校(1月27日35名)
- · 学校法人佐賀清和学園佐賀清和高等学校1年生(1月27日38名)
- ·佐賀県立鹿島高等学校(1月26日11名)
- · 佐賀大学教育学部附属中学校美術部(2月18日16名)
- ・白石町立六角小学校(2月20日28名)

平成 28 年 4 月 12 日~平成 29 年 2 月 20 日

8.入館者一覧表 ※数値に重複あり

0.八貼1一見衣					※数値に重複あり
展覧会	入場者数	会期	日数	主催	展示会場
芸術地域デザイン学部展 芸術で地域を拓く、芸術で世界を拓く	3, 873	3月21日 -5月8日	42	芸術地域デザイン学部設置準備委員会/ 佐賀大学文化教育学部/佐賀大学美術館	ギャラリー1、ギャラリー2、 スタジオ
久富邦夫〈東京〉一太宰と出会った修業時代	4, 979	3月21日 -7月10日	96	佐賀大学美術館	特別展示室 ※観覧者実数
佐賀の美術教師たち 地方画壇の成立と美術教育者	4, 958	5月20日 -7月10日	45	佐賀大学美術館	ギャラリー1、ギャラリー2、 スタジオ、小展示室
幕末維新期の小城一書聖・中林梧竹の生きた時代―	4, 467	7月15日 -8月10日	23	佐賀大学地域学歴史文化研究センター	小展示室
芸術表現基礎・地域デザイン基礎 成果発表展	4, 120	7月23日 -8月10日	16	佐賀大学芸術地域デザイン学部	ギャラリー1、ギャラリー2、 スタジオ
佐大の工芸―平成27年度新収蔵品による	4, 389	7月23日 -11月20日	101	佐賀大学美術館	特別展示室 ※観覧者実数
楢崎重視と東光会佐賀支部展◇画業60年米寿記念◇	1,870	8月19日 -8月28日	9	東光会佐賀支部緑光会/佐賀新聞社	ギャラリー1、ギャラリー2、 スタジオ
佐賀大学教育学部附属特別支援学校 第1回児童生徒作品展	732	9月2日 -9月11日	9	佐賀大学教育学部附属特別支援学校	ギャラリー1、ギャラリー2、 スタジオ
S-YOU-GA展	1, 116	9月17日 -9月22日	5	芸術地域デザイン学部(西洋画教室)/ 崇城大学芸術学部(洋画コース)	ギャラリー1、ギャラリー2、 スタジオ
ダイアログ・イン・ザ・ダーク佐賀2016	781	9月30日 -10月9日	8	佐賀県/特定非営利活動法人 ダイアローグ・ジャパン・ソサエティ	ギャラリー1、ギャラリー2、 スタジオ
国際大学折紙連盟(ICOA)作品展	2, 808	10月14日 -10月30日	15	折紙探偵団九州友の会/ 国際大学折紙連盟(ICOA)	スタジオ
第7回 璞友会展	991	10月18日 -10月23日	6	璞友会	ギャラリー1、ギャラリー2
平成28年度 JA共済小・中学生 第52回書道 第42回交通安全ポスターコンクール入賞作品展示会	1, 587	10月27日 -11月3日	7	農業協同組合/ 全国共済農業協同組合連合会佐賀県本部	ギャラリー1、ギャラリー2
第5回 佐賀大学コンテンツデザインコンテスト 特別企画 日本アニメーションの過去・現在・未来	2, 580	11月8日 -11月19日	11	佐賀大学コンテンツデザインコンテスト 実行委員会	ギャラリー1、ギャラリー2、 スタジオ、小展示室
第58回 総合展	1, 752	11月24日 -12月4日	10	佐賀大学芸術地域デザイン学部	ギャラリー1、ギャラリー2、 スタジオ、中庭、小展示室
第57回 佐賀県学童美術展	2, 956	12月13日 -12月18日	6	佐賀県造形教育研究会	ギャラリー1、ギャラリー2、 スタジオ
Sブリュット公募展 もうひとつのものさし展	899	1月7日 -1月15日	8	社会福祉法人はる	小展示室
第32回 佐賀県高等学校美術教師作品展 第6回 高校美術生徒作品展「これが高校美術だ!」	735	1月18日 -1月22日	5	佐賀県高等学校教育研究会芸術部会美術部会	ギャラリー1、ギャラリー2、 スタジオ
第41回 佐賀県高等学校書道教師書作展	1, 020	1月25日 -1月29日	5	佐賀県高等学校教育研究会書道部会	ギャラリー1、ギャラリー2、 スタジオ
第57回 佐賀県学童美術展児童生徒立体作品展 第48回 佐賀市教職員美術展	1, 267	2月3日 -2月10日	7	佐賀市教科等研究会図工美術部会	ギャラリー1、ギャラリー2
第61回 佐賀大学文化教育学部美術·工芸課程卒業制作展 第23回 佐賀大学院教育学研究科修了制作展	2, 630	2月17日 -2月26日	9	佐賀大学文化教育学部/ 佐賀大学大学院教育学研究科	ギャラリー1、ギャラリー2、 スタジオ、小展示室
佐賀大学デジタル表現技術者養成プログラム 第7期生修了作品展「電脳芸術展」	719	3月2日 -3月5日	4	佐賀大学クリエイティブ・ラーニングセンター	ギャラリー1、ギャラリー2、 小展示室
佐賀大学大学院都市工学専攻・理工学部都市工学科 修士制作・卒業制作展	920	3月4日 -3月12日	8	佐賀大学大学院工学系研究科都市工学専攻/ 佐賀大学理工学部都市工学科	スタジオ
久富邦夫〈佐賀〉―創造の旅	4, 191	11月25日 -3月25日	95	佐賀大学美術館	特別展示室
田中嘉生教授 退任記念展	1, 402	3月15日 -3月25日	10	田中嘉生教授退任記念展実行委員会/ 佐賀大学芸術地域デザイン学部	ギャラリー1、ギャラリー2、 スタジオ
		1		1	1

平成28年3月21日~平成29年3月25日

年度別入場者数実績

※数値に重複なし

入館者数・開館日数 年 度	総入館者数	うち有料入館者数	開館日数
平成25年度	27, 167	0	125
平成26年度	40, 780	2, 652	254
平成27年度	37, 965	0	278
平成28年度	38, 474	0	291

(8) 作品管理・保管

(平成28年度新収蔵作品)

収蔵年	作家名	作家名_E	作品名	作品名_E
2016	久富邦夫	HISATOMI, Kunio	山麓のK先生	Mr. K at the foot of the mountain
2016	久富邦夫	HISATOMI, Kunio	扇	A fan
2016	久富邦夫	HISATOMI, Kunio	松島風景	Landscape of Matsushima
2016	久富邦夫	HISATOMI, Kunio	手紙	Letter
2016	久富邦夫	HISATOMI, Kunio	モデルとY先生	Model and Mr. Y
2016	久富邦夫	HISATOMI, Kunio	ほりばた(公会堂と文化館)	Beside the moat,Public hall and culture hall
2016	久富邦夫	HISATOMI, Kunio	絵のある部屋	Room with picture
2016	久富邦夫	HISATOMI, Kunio	祭の日	Festival day
2016	太宰 治	DAZAI, Osamu	久富君像	Portrait of Mr. Hisatomi
			久冨家関連資料 一式	Related documents of Hisatomi family
			久冨家関連書籍 一式	Related books of Hisatomi family
2016	緒方敏雄	OGATA, Toshio	夏折々	Every summer
2016	緒方敏雄	OGATA, Toshio	夏•一章	Summer · Chapter 1
2016	緒方敏雄	OGATA, Toshio	女性立像	Statue of Lady
2016	楢崎重視	NARASAKI, Shigem	五部浄像	Guardian of Buddhism
			楢崎重視関連資料 一式	Related documents of Shigemi Narasaki



久富邦夫《扇》



太宰治《久富君像》

分類	制作年(和暦)	制作年(西暦)	寸法(H×W×D)	素材	出品歴	寄贈者
西洋画	昭和14	1939	22 × 27.3	油彩・キャンバスボード		久冨家
西洋画	昭和15	1940	116.6 × 72.7	油彩・カンヴァス		久冨家
西洋画	昭和15	1940	22 × 27.3	油彩·板	郷土作家油絵展	久冨家
西洋画	昭和16	1941	116.6 × 72.7	油彩・カンヴァス		久冨家
西洋画	昭和24	1949	91 × 72.7	油彩・カンヴァス		久冨家
西洋画	昭和26	1951	27.8 × 27	油彩•板		久冨家
西洋画	昭和18	1943	145.5 × 97	油彩・カンヴァス	第1回新日展	久冨家
西洋画	昭和49	1974	162 × 130.3	油彩・カンヴァス	第6回改組日展	久冨家
西洋画			18×14	油彩・キャンバスボード		久冨家
資料						久冨家
書籍						久冨家
彫刻	昭和59	1984	173 × 58.3 × 41.4	FRP	改組第16回日展	山田英智氏
彫刻	昭和60	1985	173.5 × 53 × 42.5	FRP	改組第17回日展	山田英智氏
彫刻			132.6 × 45.3 × 26.9	FRP		山田英智氏
西洋画	昭和58	1983	53x45.5	油彩・カンヴァス		楢崎重視氏
資料						楢崎重視氏



緒方敏雄《夏折々》



楢崎重視《五部浄像》

(10) 寄附状況

[美術館設置募金の経緯]

平成 23 年 6 月美術館設置募金WG設置平成 24 年 4 月美術館設置事業募金開始平成 25 年 6 月寄附者芳名帳を公開

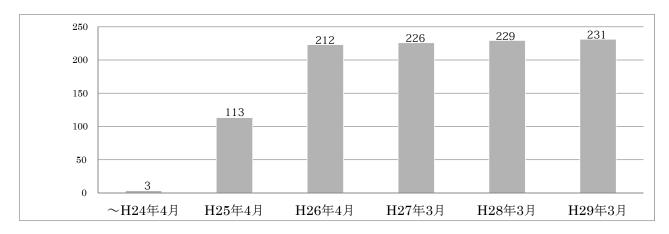
平成 25 年 6 月 美術館規則の制定に伴い,美術館設置募金WGを解散

平成25年9月 美術館に高額寄附者銘板を設置

平成 25 年 10 月 美術館開館後も美術館設置事業募金を継続

平成 29 年 3 月 募金総額 231, 218, 663 円 (平成 29 年 3 月 31 日現在)

寄附金額 (単位:百万円)



Ⅱ 自己点検・評価

平成28年度までの美術館運営の特徴について

当美術館は平成25年度10月に新制佐賀大学(旧佐賀大学と佐賀医科大学統合による)10周年を記念して開館した。国内で初の国立総合大学に附属する美術館であり、様々な展示事業を通じて大学の情報や教育・研究の成果を発信するとともに地域のコミュニティセンターいわゆる"Center of Community"(以下「COC」という。)として市民の方からも気軽に大学に足を運んでもらうきっかけとなることを目指している。

この目的のために大学内の施設ながら常時一般公開し、また、市民団体にも活動の場を提供しながら年間を通して開館している。オープンから平成28年度末までの3年半に70本の事業を行い、約14万4千人の入館者があった。来館者の層は学生や教職員など大学関係者にとどまらず、市民の一般観覧、近隣小中高校からの団体見学など幅広い。所在地の人口に対する入館者の割合でみると他の大学博物館・美術館では高いところでも3%台(平成27年度本学アンケート調査)であるが、当館は前年度と同じく16%強と利用率が非常に高くなっている。この数値は「開かれた大学」を象徴する施設としての存在意義を示すと同時に、芸術活動が日常にとけ込んでいる佐賀の文化風土に由来する大きな特長となっている。

このような市民を含めた利用率の高さや「特別教科(美術・工芸)教員養成課程(以下「特美」という。)」に由来する美術・工芸教育の伝統と質、芸術と他領域を結びつける総合大学ならではの学際的な試み、佐賀の文化・芸術の紹介等を卒業生を含む周囲の関係者との緊密な協力関係のもとに実施できることは当館の強みとなっている。

以下,開館4年目を迎える平成28年度の主な活動について報告し,項を改めて今後の課題について検討して参りたい。

1. 平成28年度の活動の概略

開館 4 年目を迎える平成 28 年度は、本学主催展示として、平成 28 年 4 月に開設された芸術地域デザイン学部を紹介する芸術地域デザイン学部開設記念展「芸術で地域を拓く、芸術で世界を拓く」から始まり、佐賀大学で西洋画を教えた久富邦夫の作品を学生時代から佐賀大学に勤めるまで、また、佐賀に拠点を移した以降の作品に分けて展示したほか、明治から戦後にかけて活動した佐賀県ゆかりの美術教育者たちの作品を展示し、教育面から佐賀の美術史を辿った「佐賀の美術教師たち―地方画壇の成立と美術教育者」を開催した。これらに学内外からの企画事業を併せると 25 本の事業及びそれに付随する講演会、ギャラリートーク等各種イベントを開催した。全 25 事業の内、主催事業が 5 本、学内外から企画申請を受けての事業が 20 本である。

また、展示やイベント以外では、前年度から開始した旧教員など関係者の作品収集、資料の保存管理、博物館実習生の受け入れ、県内外からの見学や視察及びメディアへの対応、 寄附金の収受などを行った。

以上の取組により、平成28年度は年間で38,474人の入館者を迎えることができた。昨年度より入館者数は減少したが、依然として他の大学附属博物館・美術館と比較して多くの来館者数を維持している。これは、休館日設定を月曜のみとしていることと、学外を含む企画申請事業を多く開催していることによる。

企画申請事業を主催する学外の団体に対しての使用料は、平成28年度は10件、402千

円となった。平成27年度から施設使用料を課しているが、平成27年度から件数は2件減少したものの、収入額は50千円ほど微増し大きな変動はなかった。

結果として、小学生・中学生から大人まで幅広い市民の作品が大学美術館で展示されることとなり、地域を志向した教育・研究・地域貢献を進めることで地域コミュニティの中核的存在であるCOCを目指す大学運営に一定の貢献をしたと考える。

開館からの総入館者数は144,386人(平成29年3月31日現在)となった。

(1)美術館主催事業

「大学の紹介・広報・研究成果の発表」「大学の所蔵品の調査・公開」「<特美>から現在までの本学の美術・工芸に関連する人と作品」「地域の文化伝統の解題・アーカイブ」「総合大学の美術館としての特色を生かした展示」等に焦点をあてる。

- ①芸術地域デザイン学部開設記念展「芸術で地域を拓く、芸術で世界を拓く」は、平成28年4月に開設された芸術地域デザイン学部を紹介する展覧会であり、同月に着任した3名の教員の作品を中心に、新学部の全教員24名の作品や研究成果を紹介し、会期中にはその3名の教員によるギャラリートークを開催した。
- ②佐賀大学で石本秀雄とともに西洋画を教えた久富邦夫の作品を特集し、「久富邦夫〈東京〉―太宰と出会った修業時代」、「久富邦夫〈佐賀〉―創造の旅」の2回に分けて展覧会を開催した。久富本人の作品だけではなく文豪太宰治が描いた久富の肖像画も公開した。
- ③明治から戦後にかけて活動した佐賀県ゆかりの美術教育者たちを3章構成で紹介した「佐賀の美術教師たち―地方画壇の成立と美術教育者」は教育面から佐賀の美術史を辿った展覧会であり、会期中に作家の関係者や、異なる立場で美術教育に関わってきた研究者、教育者を招き、トークイベントやギャラリートークを開催した。
- ④「佐大の工芸―平成27年度新収蔵品による」と題し、平成27年度に新しく収集した作品の中から、佐大の工芸佐賀大学の工芸分野で教鞭をとった旧教員の作品を紹介した。

(2) 企画申請事業

① 学内利用に関しては、本学の教職員全員にメールを配信し、教育研究の成果発表や授業の一環としての展示室利用について企画を受付けることを芸術系以外の教職員にも公平に周知している。

美術館という施設の性質上、やはり中軸となるのは美術・工芸の教員・学生らによる作品発表で、恒例の「総合展」第58回展や「卒業制作展」などで力作が並べられた。

昨年からの継続事業としては,第5回佐賀大学コンテンツデザインコンテストや 各卒業制作展(書道,デジタル表現,建築)が開催された。

地域学歴史文化研究センターは小城市で行ってきた「小城鍋島文庫」に関連する 展示を再構成して大学美術館で紹介するプレイバック展を行った。

平成28年4月に設置された芸術地域デザイン学部は、「芸術表現基礎・地域デザイン基礎成果発表展」として1年生が、前期授業内で制作した成果を発表した。 館内だけでなく、美術館の周囲にも竹でつくられたオブジェを展示したほか、オープンキャンパスでは学生によるギャラリートークを開催した。

② 学外からの企画申請の受付けは、美術館ホームページ及びフェイスブックで周知した。継続事業としてはJA主催の小・中学生ポスター・書道コンクール展、璞友会

展,高等学校美術教師&生徒作品展があり,前年度より2件増えたことから,初等教育から中等教育,そして市民活動まで,地域の文化活動に発表の場所として定着しつつあることを示しているといえる。特に今年度新規事業として開催された第57回学童美術展は,6日間の開催で2,952人,一日平均約500人弱を集めた最大の展示会となった。

(3) 実習 • 研修事業

平成28年4月の芸術地域デザイン学部開設に伴い,地域デザインコースが設けられ,平成28年度は学芸員資格取得希望者22名を受け入れ,①資料整理,②監視,③資料取扱の3種類の実習を館内で行い,①②について美術館学芸員が非常勤講師として担当した。

また、3月には初めて中学生の職場体験を受け入れた。

(4) 刊行物の発行

平成 28 年度は美術館主催事業「佐賀の美術教師たち―地方画壇の成立と美術教育者」において図録を発刊したほか、平成 27 年度の事業活動をまとめた「平成 27 年度佐賀大学美術館年報/紀要」を発行した。

(5) 掲載紙・テレビ取材等

平成 28 年度にメディアでの掲載・放映は、新聞等 135 件、テレビ・ラジオ 26 件取り上げられた。各事業については当館ホームページやフェイスブックなどで逐次情報を提供することで予算のかからない広報宣伝と事業の報告に努めている。台風など災害時に来館者に開館情報を伝える際にもウェブを用いることで対応した。

また例年通り,見学団体・視察等を随時受け入れた。大学見学のための高校生や 父兄の団体見学が最も多いが,学内の授業の一部として美術館見学を組み込むケー スも増えてきている。解説・案内等の依頼に対しては,現行の職員体制で可能な限 り応じた。

(6) 資料収集·保存

平成26年度より寄贈作品の受け入れを開始し、今年度も引き続き、展覧会や学内の作品調査に基づき作品収集を行った。今年度は久冨家から久冨邦夫の西洋画8点の他、太宰治が描いた西洋画「久冨君像」及び関係資料の寄贈を受けた。また、緒方敏雄の彫刻3点、楢崎重視の西洋画1点及び関係資料の寄贈を受けた。

(6) 収支の状況

平成28年度事業の予算は、16,725千円であり、事業費の内訳は別紙のとおりであった。

2. 今後の課題等

大学美術館としての理念に基づく展示企画,作品収集・保存の状況,館運営などのバランスの中で年間スケジュールを構成してきた。開館から3年半が過ぎ,大学及び学生,そして地域社会に資するような調査・研究,教育普及活動について少しずつ積み重ねられている実感がある。一方で,今後も継続的に美術館を運営するためには,常に課題の所在を念頭に置きつつ多方面と問題を共有し,助言・協力を仰ぎつつ,実現できるところから順次取り組みを進めていく必要がある。

(1) 美術館の運営費等

開館以来,美術館の運営費の継続的な確保は最大の課題となっている。開館後も 寄附募集は継続しているが,寄附件数・金額とも減少しており,このような状況下 で運営費の確保が安定した美術館運営のために必要とされる。平成26年度からは 施設使用団体から光熱水費の実費負担を求めて,平成27年度にはさらに学外の使 用団体からの使用料の徴収を開始した。平成28年度は65万円ほどの貸付収入とな り,平成27年度までの年間約50万円から微増しており,ここ3年間は安定した収 入となっている。

今後も自己収入策の検討、継続しての寄附獲得の努力、特に地域の企業等からの協力、外部資金の獲得などを検討していく必要がある。同時に、大学美術館ならではの事業の遂行により当館の意義を周知し理解を深めていくことで、寄附その他の地域からの協力に結びつくような実りある事業を行う努力を続け、また、そのための体制を作っていく必要がある。

美術館貸付料収入等の推移(平成26年度~平成28年度)

単位:円

年度・件数	平	成26年度	<u>1</u>	成27年度	平成28年度	
収入区分	件数	金額	件数	金額	件数	金額
学外 (現金等収入)			13	349, 252	10	401,800
学内 (予算振替)	8	515, 601	8	137, 385	10	256, 999
計	8	515, 601	21	486, 637	20	658, 799

(2) 美術館活動

現状,正規学芸員1名と非常勤3名,再雇用職員1名という体制で年間291日稼働し,3万人を超える入館者がある。限られた予算と人員の中で特色ある美術館活動を行っていくためには、今後より一層,取り組む内容や手法の工夫,当館の特徴である特美以来の美術教育の伝統及び日本で唯一の国立総合大学附属の美術館としての存在感を活かしていく必要がある。一方で、企画展示への対応に時間をとられ、現人員では美術館の役割である調査研究を進める余力が不足していることは、重要な課題である。

(3) 施設とセキュリティの課題

平成27年度に問題点としていた排水用のピットポンプの不具合については、今年度補修工事を行い解決した。収蔵庫及び各展示室の温湿度管理については、ガラス面が多い建物の構造上、季節、天候等の影響が大きく、細心の注意を払う必要があり負担も大きいものがあるが、引き続き日常的にその変化の確認を行い、良好な状態を保ち続ける必要がある。

(4) 他の組織等との連携・協力

主催事業展示においては、近隣の美術館等から作品の貸与(P.11)を受けており、一定の信頼関係は構築できている。また、平成28年度は、芸術地域デザイン学部開設記念展「芸術で地域を拓く、芸術で世界を拓く」を芸術地域デザイン学部、文化教育学部、美術館主催で開催した。理系学部の展示としては、昨年に引き続き、大学院工学系研究科都市工学専攻及び理工学部都市工学科の修士制作・卒業

制作展を同専攻及び同学科主催で開催された。

他の美術館・博物館など近隣他館,また,地元の美術関係者との協力関係,信頼 関係は美術館が活動していく上で不可欠であり,今後も構築の努力を続けていく必要がある。

学内における学部等との連携は、各学部等における情報発信の場として、美術館が全学で利用可能な施設であることを学内に浸透させるため、美術館の利用促進を図る必要がある。

佐賀大学美術館自己点検評価報告書(平成28年度)外部評価

番号	評価項目	評価	評価についてのコメント
1	教育研究の	□十分に達成	・教職員の研究成果を学生に聴講させる会場に。
	支援と発信	■達成	・各種サークルの活動成果の発表の場として有効に使用
		□要検討	させる。
			・博物館実習等の成果を次年度に行う学生等に聴講させ
			る。
2	社会貢献	□十分に達成	・美術館関係者以外の6学部の学生に研究発表の場とし
	地域振興	■達成	て利用してもらっては。
		□要検討	・一般市民に美術館関係以外の研究資料等の発表の場を
			与える。
3	芸術振興	□十分に達成	・同窓会等にお願いし各学部の歴史的貴重な価値ある資
		■達成	料の展示を要請しては。
		□要検討	・各部の貴重な資料の展示を要請しては。
4	大学運営に	□十分に達成	・限られた予算と職員で努力されている。
	対する貢献	■達成	・職員の運営を最大限に活用を行う。
		□要検討	
5	組織運営	□十分に達成	・一般市民に美術館運営に参加してもらう。
		■達成	・退職された興味のある教職員に美術館運営に参加して
		□要検討	いただく。
6	評価の妥当性	□十分に達成	・展示方法に改善が見られる。
		■達成	・外部にもう少し周知する努力が必要。
		□要検討	・少ない人員で美術館運営がなされている。
			・展示に各学部にもう少し美術館に興味を持たせる努力
			が必要。

平成30年2月1日

検証者所属				
検証者氏名	 尾	正	隆	印

佐賀大学美術館自己点検評価報告書(平成28年度)外部評価

番号	評価項目	評価	評価についてのコメント
1	教育研究の	■十分に達成	久富先生の太宰との出会い、創造の旅展、佐大の工芸~
	支援と発信	□達成	収蔵品について、田中喜生教授退官記念展等、大学関係
		□要検討	芸術分野の成果発信は十分になされている。
2	社会貢献	□十分に達成	地域のグループ展や学童美術展などを開催することによ
	地域振興	■達成	り、一般の入場者が増しており、大学への親しみが生ま
		□要検討	れている。
3	芸術振興	■十分に達成	佐賀の美術教師たち、一地方画壇の成立や小城の梧竹
		□達成	などを取りあげて
		□要検討	地域文化の紹介が計画されたのは良かった。
4	大学運営に	■十分に達成	ダイヤログ・イン・ザ・ダーク佐賀(体験型展示)や、S
	対する貢献	□達成	ブリュット公募展など特色ある展示など見ごたえがあ
		□要検討	り、大学美術館としての特色が出たと思う。
5	組織運営	□十分に達成	年間を通して市民グループ展なども含めて活動している
		■達成	のはありがたい。しかしグループ展等の申し込みなどは
		□要検討	もう少しわかりやすく出来ないだろうか?
6	評価の妥当性	□十分に達成	大学の特別支援学校作品展では、もっと県内の他の支援
		□達成	学校作品なども呼びかけてもいいのでは?
		■要検討	この(28年度)評価は一年おくれになっているのでそ
			の年度の終了時には出来ないが検討がほしい。

平成30年2月1日

検証者所属				
検証者氏名	<u>金</u>	子	岡川	(FI)

佐賀大学美術館自己点検評価報告書(平成28年度)外部評価

番号	評価項目	評価	評価についてのコメント
1	教育研究の	□十分に達成	いずれにしろ、内戸を開き他の大学と交流していくこと
	支援と発信	■達成	は、学生諸君にとっては意味あることでしょう。
		□要検討	博物館実習の取組は、佐大美術館ならではに思えた。
2	社会貢献	□十分に達成	佐大も外壁がなくなりオープンになった。
	地域振興	■達成	同時に佐大美術館ができたことで県民、市民は自由に出
		□要検討	入りし、大学との距離は一気に埋った。
			さらに埋っていく。
3	芸術振興	■十分に達成	「佐賀の美術教師たち」展は労作だと思う。このような
		□達成	切り口の企画展は見たことない。佐賀の美術史、また、佐
		□要検討	賀美術協会をも新たに透して見せた。骨太の研究であっ
			た。もっと掘り込んでほしいところ。
4	大学運営に	□十分に達成	昔より佐大といえば、"特美"でした。
	対する貢献	■達成	今は教育学部美術・工芸課、そして新たに芸術地域デザ
		□要検討	イン学部はやはり「顔」でしょう。
			学生さんたちのガンバリも伝って来ます。
5	組織運営	□十分に達成	国内外の美術館体験から言わしてもらうと、まずは美術
		■達成	館関係者が来客者へのサービス精神で"感じよく接する"
		□要検討	ことだと思う。それいかんにより、有名美術館でもイイ
			展示会でもゼロになることしばしば。
6	評価の妥当性	□十分に達成	冷静にとらえてある。
		■達成	何に事も時間がかかるものです。
		□要検討	歩きはじめた子供をどう育てていくかと言うことのよう
			です。

平成30年2月1日

検証者所属				
検証者氏名	服	部	大二郎	E